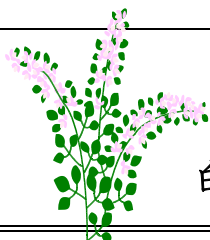


横須賀市立長浦小学校

学校便り

ながうら

白秋 9月号



平成28年(2016年) 8月25日(木)

発行 学校長 大西 正康

長浦小学校 学校教育目標

1. 自ら考え工夫する子
2. 思いやりのある子
3. 礼儀正しく元気な子

名月をとってくれろと泣く子かな

一茶

夏休みも終わり、学校が始まりました。皆さんにとっては、どんなひと夏だったでしょうか。お変わりありませんでしたか。心に残った夏休みの思い出話は、教室で友達や先生たちとゆっくり語り合いたいですね。

遙か地球の裏側で行われていたりオ・オリンピックも無事に閉幕しました。数々の熱戦に、応援する側もとても盛り上がりました。感動させられた場面も数多くありました。

さて、今日から授業が再開されました。前期の後半が始まります。前期末ともなりますので、学習のまとめをしっかりとしていきたいところです。とは言っても、まだまだ残暑は続きそうです。そしてまた、長い休みの後ということもあり、いつも(日常)の規則的な生活ペースに、心身共に早く戻ることが何より大事かと思います。

外の陽射しは、明らかに傾いてきています。まさに、<斜陽>の頃。また、今年のお中秋の名月は、9月15日だそうです。夏から秋に向かう季節の巡りを味わいながら、今年後半も皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思います。保護者・地域の皆様、何かとお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



学校内外日誌

＜夏の地域行事から＞

夏休みには、地域それぞれで祭礼等の行事がありました。企画運営された各自治会の皆様には、暑い中、大変お世話様でございました。さぞお疲れになったこととお察し申し上げます。

それらの行事に参加する子どもたちの姿もあちこちでたくさん見ることが出来ました。その中で、子どもたちには地域の一員としての意識が少しずつでも育まれていったことと思います。貴重な経験を積ませることができましたことに感謝申し上げます。

右の写真のように、東長浦、5丁目、安針台と、当然ながら少しずつ雰囲気の違い、それぞれの良さを生かしながら、町内の人々が夏の一時を楽しんでいる様子が、とても素晴らしいと感じました。

このような夏の夜が、きっと地域によっては昔からずっと続いてきたのだろうな、と思いながら、これからも途切れないでほしいと願わずにはられませんでした。



・＜東長浦祭礼＞ 7月30日



・＜長浦5丁目祭礼＞ 8月6日



・＜安針台納涼祭＞ 8月13日

＜お知らせ＞

2年担任田村教諭の新採用研修指導教員として、9月から次の教員が着任致しますのでお知らせいたします。どうぞよろしくお願ひします。

拠点校指導教員 秋吉 玲子 教諭

長浦文学散歩 ～その2

芥川龍之介 『蜜柑』～

『或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待ってゐた。

(中略)

すると、その瞬間である。窓から半身を乗り出してゐた例の娘が、あの霜焼けの手をつとのぼして、勢よく左右に振ったと思うと、忽ち心を躍らすばかり暖かな日の色に染まっている蜜柑が凡そ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空から降って来た。私は思はず息を呑んだ。さうして刹那に一切を了解した。』……(原文のまま)



芥川龍之介は、大正5年から8年までの間、当時横須賀にあった海軍機関学校の英語の嘱託教員として奉職し、週に12時間教壇に立っていた。その頃は鎌倉に住み、横須賀線に乗って通勤していた。(当時はまだ電化されておらず、蒸気機関車牽引の列車時代である。)小説『蜜柑』は、この通勤の車中での出来事を題材にしたものである。

『云いようのない疲労と倦怠』を感じていた男(主人公)は、目の前の座席に走り込んできて座った一人の少女を快く思わない。その少女は、汽車が走り出して、トンネルに入ろうとしているにも拘わらず、窓を開けようとしている。男は、ますます不快に思う。……が、トンネルを抜け、踏切に差し掛かろうとした時、そこに頬の赤い男の子が三人並んでおり、少女はその子たちに向かって五つほどの蜜柑を投げた。奉公先に向かう娘が、わざわざ見送りに来た弟たちに向けて、みかんを投げその労に報いたのだった。この光景を目にした男は、『得体の知れない朗らかな心もち』になるのだった。-----

- ・この踏切が、長浦1丁目に向かうところにある踏切だと云われている。
- ・芥川龍之介文学碑は、吉倉公園内に建てられている

《 9月 主な予定 》

・ 19日(月) 敬老の日 ・ 22日(木) 秋分の日

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2日(金) ・ 4日(日) ・ 6日(火) ・ 7日(水) ・ 8日(木) ・ 13日(火) ・ 14日(水) ・ 15日(木) ・ 21日(水)～22日(木) ・ 26日(月) ・ 29日(火) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇談会 <1～6年> ・ おやじくじら昔遊び ・ 不審者対応訓練 ・ たてわり班遊び ・ 委員会活動・お話し会・銀行引落日① ・ 邦楽教室 <6年> ・ 代表委員会 ・ 読み聞かせ集会 ・ クラブ活動 ・ キャンプ <5年> ・ 銀行引落日② ・ 青空級交流会 	 <p>いつも ありがとう</p>
--	---	--	--

校長室より

— 変な言い方 —

昔、『ナウい。』などと言って、お爺さんに『何だ、その言い方は。』と叱られた記憶がある。言葉は、生々流転しているものだから、日々変わって不思議ではない。しかし、今の人々が使っている言葉に、やはり違和感を覚えることが、昨今の私にも多くなっていた。自分が、お爺さんになってきた証拠でもある。しかし年寄りだろうが何だろうが、変なものは変だ、とせめてここでは大きな声で言わせてもらおう。

まずその①『ほぼほぼ』・『これは、ほぼほぼ間違いないでしょう。』などと使われている。テレビで、いい年の評論家が使っていたから、もはやかなり広がってきているのは間違いない。『ほぼ』ならわかる。しかし、何だ！『ほぼほぼ』とは。『ほとんど』と言えればいいじゃないか。

その②『1万円からお預かりします。』・・・コンビニなどでは、当たり前のように使われている。これのどこがおかしいか、わからない人の方が多くなってしまったのではないか。レジのお兄さんに、一度注意しようと思ったが、いかにも教師臭いので、やはりやめた。

その③『大丈夫です。』・『美味しいナポリタンを作ったんだけど、いるか。』と、先日我が娘に聞いたら『大丈夫です。』だと。『え！？いるのか、いないのか。わからん。』せっかくお父さんが、昔懐かしい新宿風月堂レシピの昭和風ナポリタン・スパゲティ(パスタではない)を作ったのにね。

・・・ということで、言葉に対する違和感とは、それを持つ人自身の加齢ぶりを示す尺度でもあるだろう。いくら違和感を覚えても、大勢はもうその方向に動いてしまっている。多勢に無勢だ。しかし、あと20年もすれば、今使われている言葉だって、『何それ、ナウくないねえ。』などと、言われるようになるのは、ほぼほぼ確かだろう。

*先月号誤字訂正 ○○茶補→○○茶舗 お詫びして訂正致します。